

嶋崎吉彦さんを偲んで

牧野 雅彦¹⁾

嶋崎吉彦 元地質調査所海洋地質部長・鉱床部長・海外地質調査協力室長が2021年4月22日満92歳でご逝去されました。

嶋崎さんは地質調査所のみならず東アジア、東南アジアの国際協力活動の草分けのひとりとして、その発展のために長い間ご尽力されました。1928年にお生まれになられ、1953年に東京大学理学部を卒業後、米国スタンフォード大学でPhDを取得されました。嶋崎さんは幼少の頃に父君の仕事で海外滞在経験もあり、その話す英語はまさに native そのものでした。地質調査所で鉱物研究ならびに国際協力・国際連携活動に従事され、そして鉱床部長および海洋地質部長を務められ、退職後は、民間企業で国際協力プロジェクト計画立案に従事、また公益社団法人東京地学協会の名誉会員として地球科学研究者の活躍の場と対象を広げることに尽力されました。

嶋崎さんの地質調査所での簡単な経歴を以下に記述します。

- 1957年 地質調査所鉱床部鉱石課
- 1969年 鉱床部核原料資源課長
- 1972年 鉱床部鉱物研究課長
- 1975年 ESCAP 出向
- 1979年 海外地質調査協力室長
- 1982年 鉱床部長
- 1985年 海洋地質部長
- 1988年 退職

嶋崎さんは東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (Coordinating Committee for Geoscience Programmes in East and Southeast Asia: CCOP) の設立からその発展に至るまで大きく貢献されてきました。その多大なる功績により CCOP から名誉顧問の称号を与えられ、その人柄から加盟国から“big father”と慕われてきました。CCOP は東・東南アジア地域における経済発展と生活レベルの向上を目的として、地球科学分野のプロジェクト、ワークショップ等の推進、調整を行う政府間機関です。1966年、国連アジア太平洋経済社会委員会 (United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific: ESCAP) の下に設立されました。当初は海洋地域での共同探査に重点を置き、そのための研究や調査の立案、実行の調整を行う機関でした。嶋崎さんは日本政府代表代理として CCOP の設立で活躍されました。設立当初は、日本、韓国、台湾、フィリピンの4カ国を加盟国として発足しましたが、現在の加盟国は16カ国 (ブルネイ、カンボジア、中国、インドネシア、日本、韓国、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム) です。日本の常任代表は (国研) 産業技術総合研究所地質調査総合センター長が務めています。

嶋崎さんご自身で、地質調査所の国際活動について地質ニュースに多くの記事を執筆されています。また「東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (CCOP) 設立と地質調



2013年10月に仙台で開催されたCCOP年次総会にて

1) 産総研 地質調査総合センター研究戦略部

キーワード: CCOP, アジア, 国際活動, 地球科学, ESCAP, 訃報, 地質調査所

査所の国際連携活動の展開」と題した記事(嶋崎, 2016)を工業技術院および産総研 OB 組織である「産工会」のWEBサイトに掲載されています。AISTの研究秘話として、1945年の敗戦から国際連携活動がどのように展開されてきたかについて具体的に様子が分かります。また、別の記事では「実は、私の本心ではなくむしろイヤイヤながら、国際的な活動に否応なしに引きずり込まれましたが、仕事をやっているうちに、せっかくなら、日本の地質調査所を是非とも世界の地質調査所にしてやろう、というような夢を抱くようになりました」と当時の心情を述べています。

CCOP加盟国は4カ国から16カ国と発展してきましたが、途中で危機的な財政状況がありました。嶋崎さんはこの危機に率先して取り組み、見事に財政を立て直しました。2008年頃、私は地質調査企画室長としてこの問題解決を間近で知ることができたのは貴重な経験でした。嶋崎さんは亡父と同年であり、私にとってもまさに“big father”な存在でした。嶋崎さんの訃報を関係機関に直ちにお伝えしたところ、CCOP関係者からも多くの弔意が寄せられ、ご家族にお伝えしました。ご家族によれば、2016年11月にバンコクで開催されたCCOP創立50周年記念総会の時に嶋崎さんの88歳の誕生日を皆さんでお祝いしてくれたことが一番の思い出だったそうです。

最後に、嶋崎さんの期待した国際活動についての言葉で締めくくりたいと思います。

「地質調査所に、日本の地学関係の国際活動の一つの中心になってほしい」

「地質調査所の最大の強み、最大の利点、武器は何か、ということを考える必要があると思います。私は、これは先程申し上げた世界各国の地質調査機関相互の連繋・連帯感だと思えます。これ以上の強みはないのではないかと思います」

参 考

嶋崎吉彦 (2016) 「東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (CCOP) 設立と地質調査所の国際連携活動の展開」 (https://sankoukai.org/secure/wp-content/uploads/untold_stories/yoshihiko-shimazaki_final.pdf 閲覧日: 2021年5月20日)

MAKINO Masahiko (2021) Condolences for Dr. SHIMAZAKI Yoshihiko.

(受付: 2021年5月20日)